

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月10日

【評価実施概要】

事業所番号	870101631		
法人名	社会福祉法人 翠清福祉会		
事業所名	グループホームかたくり		
所在地	水戸市河和田町4517-1 (電話) 029-309-5622		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月31日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】 (平成19年10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月3日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(平成19年10月8日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	8	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.8歳	最低	73歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城南病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりの生活スタイルを大切にしながら、家族や地域との関係を重視し、話し合いによるホーム運営を行っている。
運営推進会議を中心として防災対策・地域での連絡網による連絡訓練・地域マップの作成のために、管理者や職員が一戸一戸丁寧に訪問することで地域の認識度が高まり、利用者の生活の質を引き上げる事につながっている。
幼稚園児との定期交流や公民館を活用した地域との交流にも取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 保管扉のストッパー設置や家族への一言メッセージ送付などの取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価で話し合ったことを管理者会議で分析し、具体的な言葉で全職員に周知している。 職場会議においても具体的な改善や対応を検討し、自己評価にも活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者や家族の代表・民生委員・市の職員・有識者・ホームの職員で構成する運営推進会議を定期的に開催している。 運営推進会議ではホームの運営に関して積極的な意見交換が行われ、出された意見をサービスの向上に活かしている。 運営推進会議には市から毎回担当者2名の参加があり、意見交換を行うなどにより、連携している。 また、市内のグループホーム連絡協議会の会合で情報交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時や定期的な電話連絡で、利用者の生活や健康状態を報告している。 また、毎月の請求書とともに担当職員によるメッセージや年4回発行のホーム便りを同封することにより、ホーム全体の様子や利用者の明るい表情を伝えている。 利用にあたり、重要事項説明書にホームの苦情申し立て窓口を明示し、入り口には目安箱を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や老人会に加入し、地域清掃や公民館を活用したふれあい交流を行っている。 幼稚園児との定期交流を行っている。 緊急時の協力依頼用連絡網を作るため、隣接する地域を一軒ずつ訪問するなど、丁寧にホームの周知を図っている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人設立の理念である「福祉宣言」には、「利用者の人権や尊厳を守りながら地域の中で安心して生活できる支援」を掲げている。地域の方々を中心とした友の会組織を持ち、話し合いによる運営を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「福祉宣言」の理念を基本とし、ホーム独自の理念を職員と一緒に作っている。理念を各ユニットや事務所に掲示するとともに、職場会議等で確認するなど、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入し、地域清掃や公民館を活用したふれあい交流を行っている。幼稚園児との定期交流を行っている。緊急時の協力依頼用連絡網を作るため、隣接する地域を一軒ずつ訪問するなど、丁寧にホームの周知を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で話し合ったことを管理者会議で分析し、具体的な言葉で職員に周知している。職場会議においても具体的な改善や対応を検討し、自己評価にも活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族の代表、民生委員、市の職員、有識者、ホームの職員で構成する運営推進会議を定期的開催している。 運営推進会議では、ホームの運営に関して積極的な意見交換が行われ、出された意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市から毎回担当者2名の参加があり、意見交換を行うなどにより連携している。 また、市内のグループホーム連絡協議会の会合で情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や定期的な電話連絡で、利用者の生活や健康状態を報告している。 また、毎月の請求書とともに担当職員によるメッセージや年4回発行のホーム便りを同封することにより、ホーム全体の様子や利用者の明るい表情を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用にあたり、重要事項説明書にホームの苦情申立窓口を明示し、入り口には目安箱を設置している。 苦情や意見に対する対応状況について運営推進会議等を通じて報告している。 家族会の設立が決定している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年度初めに職員の個別面談を行い、法人内での異動の確認を行っている。 職員の異動はサービスの質の確保や利用者の落ち着いた生活に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は採用時研修、3ヶ月研修を行い、認知症研修にも積極的に参加できる機会を確保している。 職員による教育研修委員会を設置し、学習会などの研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者である認知症指導者との情報交流を図るとともに、他のグループホーム職員の実習施設として提供している。 今後のサービスの質の向上を目指して職員の外部研修活動を計画している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等の見学を受け入れるとともに、管理者や職員が自宅を訪問して馴染みの関係を築くなど、納得したうえで入居に至っている。 その際、アセスメントシートを活用しながら利用者の置かれた状態を知る努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の「出来ること」「出来そうなこと」を本人・家族や知人から聞き取り、職員とともに支えあって日常生活が送れるよう関係づくりを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用契約時に利用者・家族の希望や意向を把握し、ケアプランに活かしている。 困難な方には、24時間の生活の中から思いを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望を取り入れ、計画作成担当者・看護師・担当職員等の意見を取り入れ、利用者がよりよく暮らすための個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間満了時や傷病による心身状態の変化に合わせて介護計画の見直しを行い、個別の介護記録も考慮しながら新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する認知症デイケアセンターの利用者・職員との交流や本人、家族の状況に応じた支援を、法人内の有料ボランティアを利用する事で柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がかかりつけの病院で診察を受けることができるよう、家族と連携している。 また、緊急時の協力病院や日常の往診医を確保している。 歯科医師による口腔指導も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について、利用者や家族・かかりつけ医等との話し合いを持っている。 利用者一人ひとりに応じた援助をしながらホームで「出来ること・出来そうなこと」を見極めるため職員間で話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の基本である人権を守り、一人ひとりの尊厳を大切にする支援を行うための学習会を全職員に実施している。 個人情報の記録などの取り扱いに気をつけている。 利用者のプライバシーを損ねないような、声かけや支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの生活リズムやペースに配慮するとともに、利用者にとっての満足と安心・やすらぎを感じてもらえるよう支援している。 毎朝の職員の打ち合わせ時に方針を共有している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成から買い物・調理・後片付けを利用者と職員で行っている。 一人ひとりの持っている生活能力を見極め、役割を發揮できる場面作りを支援している。 利用者と職員は同じ食卓で、お互い会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームでは、利用者の習慣や希望・体調に合わせ、午後の時間帯において毎日の入浴支援を行っている。 利用者の希望に沿って銭湯体験を企画し、実行している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、個別の趣味や特技などが活かせるよう支援している。 作品の展示や公民館での交流などを支援している。 また、公民館に利用者の作品を展示するなど、利用者のやりがいや地域の人と交流する機会を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や日課となっている近隣宅への散歩、法人内での行事に参加するなど、色々な機会に外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を学習会等で学び、全職員が理解している。 職員の都合で居室や玄関に鍵をかけることはない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を単独で行い、隣接するケアセンターの訓練にも参加している。 突然の災害に備え、地域の人々の協力を得ながら、避難経路の確保や緊急連絡網の整備、訓練実施を行っている。 地域の高齢者の避難先としてホームでの受け入れを提示している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の好みを取り入れながら、職員と利用者が一緒に作っている。 また、作成した献立を法人内の管理栄養士に確認・指導を受けている。 水分管理の必要な利用者には、介護記録で確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口テラスでのお茶や、台所からの食欲をそそる匂いなど生活感が感じられる。 ホームでは利用者それぞれが自分の居場所を持ち、職員と係わり合いながら自然な形で生活している。 和室はいつでも活動できる場所であり、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた箆笥や鏡台、仏壇、椅子などを持ち込むとともに、家族の写真や思い出のある品を居室に飾り、安心して生活できる環境となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。